

活発な交流が行われた 「森林環境教育（森林 ESD）活動報告・意見交換会」

1月25日（月曜日）、近畿中国森林管理局大会議室において「森林環境教育（森林 ESD）活動報告・意見交換会」を開催し、14 団体による活動報告と参加者全員による意見交換会を行いました。



近畿中国森林管理局馬場局長

今回の取組は、森林環境教育を ESD の視点で捉え直すことで、活動の目的や意義、改善点、森林が持つ多様性を再認識することと、実践事例の報告、意見交換会を通じて、活動の活性化と森林を活用した環境教育（森林 ESD）の普及を図ることを目的に開催しました。

実施にあたっては、ESD をキーワードに多くの活動団体の参加をめざして、箕面森林ふれあい推進センター単独ではなく、従来から環境教育活動の支援に取り組んでいる近畿環境パートナーシップオフィス（きんき環境館）と大阪環境パートナーシップネットワーク「かけはし」と新たに連携し、三機関共催として開催しました。

当日は、報告団体の関係者の外、一般募集での参加者、主催三機関併せて、10 都府県から 80 名を超える参加者となり、所属団体で見ると 40 を超える団体からの参加と、三機関共催として取り組んだ成果といえるものとなりました。



●活動報告

活動報告は、企業関係 3、教育委員会 1、学校 1、森林インストラクター会 1、環境学習施設 1、NPO 等 7 団体から、それぞれ特徴ある活動が報告され、参加者からも「いろいろな団体・企業の取組を具体的に聴くことができよかった」「団体が様々な組織や人と手を組み、活動の広がりを感じた」「大変参考になった」との意見が多く寄せられました。

● 講評

発表内容を踏まえて京都教育大学の山下宏文教授から、学校教育との連携をいかに図るかについて、ESDの視点と森林環境教育のポイントについて話され、参加者から「ESDについて理解が深まった」「自分たちの活動で、何に取り組み、何が欠けているか、外部との連携など、考えるきっかけとなった」「これからの活動で学校を意識していくことが必要と感じた」などの感想が出されていました。



京都教育大学 山下教授

● 意見交換会

意見交換会では、5名程度のグループに分かれて、企業とNPO、教育とNPOなどの組合せで、「森林ESDで大切にしたいこと」をテーマにして意見を出し合いました。ワールドカフェ方式により組み合わせを替えて、より多くの方の意見を取り入れる工夫も行い、「もっと時間が欲しかった」との声が出るほど、熱心に意見交換が行われていました。



箕面森林ふれあい推進センター
オ本所長



近畿環境パートナーシップオフィス
赤石さん



大阪環境パートナーシップネットワーク
「かけはし」の逸見会長



● 森林のギャラリーでの参加者交流

閉会後は、森林管理局1階の森林のギャラリーで、参加自由の「参加者交流」の場を設け、発表団体活動紹介パネルの前で活発な交流が行われました。「興味のある発表団体の方と直接話ができ、大変有意義な時間を得た」など、時間いっぱいまで、参加者による交流が行われました。



アンケートの感想では、「三機関による企画は定期的なことであり、来年もぜひ続けて欲しい」「環境活動に関わる様々な団体にとって学び多く、意義ある会であった」「いろんな地域のバラエティに富んだ多くの活動報告を聴くことができよかった」など、評価する意見が多くありました。また、学校や先生との連携をどうすればよいか、学校関係者との意見交換の場を要望する意見も多くあり、来年度への課題となりました。

個人アンケートから (51名回答)

- ◎ESDへの理解が深まる 参加して理解できた 89%
- ◎ESDの視点での活動は すでに実施 29%、取り入れたいと思った 47%
- ◎活動報告参考になったと回答 98%
- ◎意見交換会で、得るもの・出会いがあったと回答 72%
- ◎全体として、今後の活動に役だつと回答 96%

